

令和6年度 第3回 第一中学校区学校運営協議会 議事録

令和7年2月26日(水)18:00から令和6年度 第3回 第一中学校区学校運営協議会を第一中学校 学習室 4 にて開催した。

出席者(6名)

服部 建 会長
倉橋 忠男 副会長
石井 英真 委員
高木 祐樹 委員
中川 修一 委員
兵頭 奈津子 委員

説明のために出席した学校の教職員の職・氏名

高槻市立第一中学校
校長 安田 信彦
教頭 水流 恵一
首席 渡邊 周平
研究主任 小川 典子

高槻市立高槻小学校
校長 八尾 洋美
教頭 星野 真吾
首席 稲垣 勇人
研究主任 松浦 萌

高槻市立桃園小学校
校長 柴原 雅彦
教頭 中村 吉博
首席 藤原 巧
教務主任 八木 大輔

議事日程

1. (報告第6号) 第一中学校区の運営状況等についての自己評価
2. (学校関係者評価) 意見交換
3. その他

(18時開会)

服部 建 会長

第3回第一中学校区学校運営協議会を開催いたします。

議事録についてはホームページ等で公開となります。

傍聴についても承認いたします。

委員の出席は、過半数を超えておりますので会は成立いたします。

開会に先立ちまして、校区を代表して、高槻小学校八尾校長よりご挨拶いただきます。

高槻小学校 校長 八尾 洋美

本日は、お忙しい中 お集まりいただき誠にありがとうございます。また、平素より 本校区の教育活動に、ご理解とご指導を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、第一中学校区 学校運営協議会も、今回が最後の会議となります。

これまでの会議でいただいたご意見を受けて、今年度の校区ブランドデザインやめざす子ども像を 学校と家庭、地域が協働して実現させるために 各学校で取り組みを進めてまいりました。各委員の皆様には、それぞれの学校での取り組みにおいて、様々なご支援をいただき ありがとうございました。

本日は、今年度の総括として、各学校における年間の取り組み、および学校評価に対し、忌憚のないご意見を賜り、来年度の学校運営に生かす会議となります。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

服部 建 会長

それでは議事に入らせていただきます。

今日は3回目ということで、学校からは、取り組みの成果、課題、学校評価を中心に報告をしてもらい、委員との意見交流にしっかりと時間を取りたいと思います。

それでは、第一中学校区の運営状況、自己評価について報告してもらいます。

第一中学校 教頭 水流 恵一

本年度の第一中学校区の取り組みについて報告いたします。各校10分間程度の報告を予定しております。

まず、第一中学校より報告いたします。

スライドの内容は、お配りしている第一中学校の「令和6年度 学校評価について」の内容と同じです。10分間ですべての内容をお伝えすることはできませんので、説明しきれなかった内容については、お手元の資料にて、後ほどご確認願います。

本校の取り組みについて、次の3点に絞ってご報告いたします。

1. 授業研究の推進について

2. 特別活動の充実について

3. いじめ防止等の対策及び不登校支援について

まず、「1. 授業研究の推進について」です。

お手元の資料では、【中期目標1・中期目標5】に記載がございます。本市教育センターからの委嘱を受け、本校は、学習指導拠点校(区)事業として研究を推進して2年目となります。研究のテーマは、学習指導要領に示される3つの資質・能力がバランスよく育まれるよう学習過程の改善を図り、質の高い授業を創造する。と、なっております。研究の目的は、成果を普及させ、市内教員の指導力向上に寄与することです。

目的達成に向けた、本年度の実践は次の3点です。

- ・思考力の育成に関する研究
- ・日常的な教員相互の参観及び協議
- ・複数の研究授業・公開授業の実施

今年度、育成を目指す「資質・能力の3つの柱」のうち、特に「思考力・判断力・表現力等」の育成に注力しました。生徒が「思考力・判断力・表現力等」を十分に発揮できるような「課題」を設定することで、「知識及び技能」を実用的なものとして活用され、課題を解決した達成感が「学びに向かう力・人間性」の育成にもつながると考えました。

「資質・能力の3つの柱」は相互に関連し合いながら発揮・育成されるものです。思考力の育成のためには、教員が生徒にとって身につけた資質・能力を発揮するのにふさわしい「課題」を適切に設定することが重要です。終了のチャイムが鳴っても課題に没頭する生徒の姿が見られました。これはまさに「学びに向かう力・人間性」が発揮・育成されている様子であると考えられます。

今年度の取り組みを経て、各種学力調査においても、平均正答率が大阪府や全国平均を大幅に上回るなど、生徒の学力向上にもつながっていると感じています。

次に、「2. 特別活動の充実について」です。

お手元の資料では、【中期目標2】に記載がございます。特別活動は、学級活動・学校行事・生徒会活動を含み、学校教育において重要な役割を担っています。食育や安全教育など、特別活動と関連性の高い取り組みも多く存在します。これまでは、各担当者が前年度の取組を参考にして準備を進めておりましたが、今年度は校内組織図を整理し、特別活動推進委員会を設置しました。各活動の担当者を配置し、学校教育目標の実現に向けて、特別活動としての役割を意識し、構成の異なるさまざまな集団での活動を通して、生徒が学校生活を送る上での基盤となる力や、社会で生きて働く力を育む活動となるよう、心がけてまいりました。

その結果、生徒たちは学級や学校の一員として協力し合い、学校生活を送ることができています。学校行事では生徒が主体的に取り組み、生徒会活動では執行部を中心に生徒憲章の策定や会則の見直しなど、自治的な活動が充実してきました。「なすことによって学ぶ」という特別活動の趣旨に沿って、活動を進めることができたと考えています。

「総合的な学習の時間」についても少し触れておきます。

本校では、昨年度から「課題解決力」を身に付けることを目標に、探究のプロセスを意識した取組を、各学年の主任が中心となって、計画的に実施しました。総合的な学習の時間に取り組む生徒たちの姿は、協働の中に埋没せず、一人一人が学習に、主体的に取り組んでいる様子が見られました。

生徒が回答する

「総合的な学習の時間に興味を持って取り組んでいる。また、将来に役立つと思う。」に対する肯定的回答は、直近の3年間で80%前後と横ばいに推移しています。「総合的な学習の時間」を通じて身に付けた力が、社会とど

のように通じているのかの自覚を、生徒に促していく必要があると考えております。

最後に、「3. 学校におけるいじめ防止等の対策及び不登校支援について」です

お手元の資料では、最後の【その他】に記載がございます。生起したいじめ事象に対しては、「いじめ防止対策推進法」、「高槻市いじめ防止基本方針」を基に作成した「第一中学校いじめ防止基本方針」に基づき、生起したいじめ事象を教材として、どのような考え方が足りていなかったのかを、道徳教育との関連性にも留意し、指導にあたっていました。

生徒が回答する「学校では、いじめ防止について考える機会がある」に対する肯定的な回答が91.9%と、前年度比で8.1ptの上昇していたことから、学校で行ってきた対応が、事象に対する対処に留まらず、生徒の成長につながるものであったと考えております。

また、本年度は、教育課程に関する保護者対象の説明会に対して、生徒指導に関する説明会を実施しました。その中では、生徒同士のトラブルは必然的に発生することや、その事象を教材化し、生徒自身が解決する力を育成することの大切さを伝えるとともに、家族や教員といった身近な大人の役割が、直接解決するのではなく、生徒自身が解決するための支援者であることを確認しました。

このように本校では、折に触れ、学校の教育方針について保護者の皆様と共有する機会を持ってまいりました。

保護者が回答する「教育方針や教育活動について、わかりやすく伝えている」に対する肯定的な回答が90.3%と、前年度比で5.7ptの上昇は、その成果であったと考えております。

本校からは以上です。次に高槻小学校からご報告いたします。

高槻小学校 教頭 星野 真吾

続きまして、高槻小学校の令和6年度の取り組みと学校評価について報告いたします。

配付しております本校の学校評価について、スライドを用いてお伝えいたします。こちらの重点的な取り組みの4項目について報告いたします。

1つ目の項目は「確かな学力の育成」です。学習意欲の向上に向けた学習指導の研究【「わかった・できた・もっとやりたい」と思える学習指導の拠点となる授業の工夫】を進め、特に今年度は、対話を通して考える力を養うことや、主体的に学ぼうとする姿の育成に取り組みしました。

この取り組みに関連する児童と保護者のアンケート結果です。

肯定的評価が高い水準で維持できており、「先生に聞きやすい」の項目は昨年度より6ポイント向上しました。児童が主体的に学ぼうとする姿が増えていると実感できます。今後も児童が進んで取り組むことができるカリキュラム作りを進めてまいります。

「総合的な学習は、もっと調べたいという気持ちになる。」の児童の評価は昨年と比べると横ばいですが、一昨年度以前の72%と比べ、85%と高い水準を維持することができました。コミュニティ・スクールの取り組みで、桃園小学校との交流学习を進め、児童が相手意識を持って、「学んだことを伝えたい課題」を設定することで、自主的に学習を進めることが定着してきた結果と考えております。今後も、桃園小学校や第一中学校と共同で総合的な学習や生活科の取り組み交流を進めるために、子どもたちの探究心を養う授業づくりを創造してまいります。

また、児童会活動に対する項目が、昨年度に比べ大幅に改善しました。委員会活動をはじめ、児童自らが、主体的に「学校のためになにかしよう」と活動している様子がみられます。先日も児童がなわとび大会や体力テストなどを企画して、集会で表彰式も行っていました。今後も児童が自分で考え、行動できる児童会活動を目指して取り組んでいきます。

2つ目の項目は「豊かな心の育成」です。「ともに学び、ともに育つ」教育を推進し、目標を共有しながら自分で考え、協力して学習を実践する力の育成に取り組みました。そのために、信頼関係のある学級集団作りや、多様な活動から「より良い生き方」につながる取り組みを進めてまいりました。

アンケートの評価です。児童が人権を大切にする意識や教職員と子どものつながり、信頼関係を示す調査項目については、良好な状態が維持できており、全体として95%を上回る結果となりました。

ただし、「いじめ防止について考える機会がある」については、昨年に比べ改善傾向にあるものの90%を切る数値となっています。今後はいじめ防止の取り組みを行っていることを意識できる授業内容の工夫をより推進することと「いじめをゆるさない学校づくり」を進めてまいります。

3つ目の項目は、健康や安全に関わる「健やかな体の育成」についてです。緊急時、自分の命を守るための安全教育の充実や、児童が自らの体について知り、食生活や健康について考えることや、主体的に体力向上を図ろうとする取り組みを推進して、「健やかな体」の育成に取り組みました。

アンケートの評価です。「学校では、事件・地震や火災などがおこった場合、どう行動したらよいかを教えてもらっている」「学校では、命の大切さ、社会のルールやマナーについて学ぶ機会がある」という項目については、児童の肯定的評価が98%、保護者は97%となり、昨年と同様に高い結果となりました。安全教育では、高槻市の安全副読本「たかつき安全 NOTE」を活用して、教室での学びを深めるとともに、全校一斉避難訓練を年間通して実施するなど、安全や防災に関する指導の充実を図りました。これにあわせ、教職員においても緊急時を想定した職員訓練を実施し、検証をもとに危機管理マニュアルの見直しを行いました。また、児童に対する命の大切さ、社会のルールやマナーについての話は、道徳の時間をはじめ、様々な教育活動の中で繰り返し指導をしています。今後も、自他の安全を守る力を育成する安全教育の推進を図っていきます。

健康や体力づくりに関する調査項目については、昨年度と比べほぼ横ばいの結果となりました。体育や特別活動の授業を中心に体づくり運動やなわとび、球技など、児童の体力向上に向けた取り組みを進めました。今後も授業の内容を工夫し、児童が体を動かす機会を充実させていきます。

また、食育に関する調査項目「給食は好き嫌いなく食べている」は肯定的評価が7ポイント上昇しており、給食の好き嫌いが減ってきている傾向があることがわかりました。各学年で教科と関連する単元や総合的な学習の時間などで、食について学習しています。今年度は5年生が栄養士の食育を受け、主体的に全クラスの残量調査を行いました。給食をしっかり食べることを放送で啓発したり、調査結果を渡り廊下に掲示したりして、全校児童の意識を向上させる取り組みを行いました。後日、各教室や職員室にも代表の児童が来て表彰状が授与されました。今後も児童の発達段階に合わせた食育を行ってまいります。

4つ目の項目は「学校力の向上」です。安心・安全な学校づくりのため、家庭や地域と連携し、信頼される学校を目指し、取り組みを進めてまいりました。今年度も地域の方々のご協力により、学習田やサツマイモ畑で体験学習をしました。残念ながら芋掘りは天候不良のためできませんでしたが、苗植えや稲刈りなど貴重な体験ができました。また近くの野見神社の宮司の方や福祉施設の方による出前授業や実地見学など、貴重な地域人材、校区の地の利を活かして地域学習を進めました。また、このコミュニティ・スクールでの意見交流についてやこの学校評価につきましても、授業参観の際などに直接保護者に向けてお伝えする機会を設けました。

アンケート調査の結果より、「コミュニティ・スクール(学校運営協議会)について知っている。」の項目については昨年度54%でしたが、今年度は9ポイント上昇し63%となりました。また、「学校の教育活動において桃園小学校、第一中学校との交流ができています。」については肯定的評価が71%と、昨年度から5ポイント上昇しました。まだ十分と言える値ではありませんが、これまでの発信や交流活動が、徐々に保護者のみなさんにも認知されつつあることが調査結果によりわかりました。今後、このような取り組みをさらに地域や保護者の皆様に発信し、取

り組みの周知をして信頼される学校を目指します。また、さらにコミュニティ・スクールを推進させ、小中一貫教育を推進するためにも、校区の連携を強化し教育目標を実現できるよう取り組んでいきます。

今年度より実施となった学習指導拠点校としての取り組みについて、ご理解、ご協力をいただいた結果がアンケート結果に反映されていると感じています。児童がわからないことを先生に聞きながら、授業に意欲的に取り組み、さらに学ぶ意欲を向上させていくという好循環がみられるようになっていきます。

児童・保護者が行うアンケート項目のまず初めの質問が「学校生活が楽しい。」です。この項目について児童は昨年度より5ポイント上昇し98%、保護者は昨年度と同じ96%。また「クラスは居心地がよく、楽しい」の項目は昨年度より5ポイント上昇し96%、保護者も昨年度から2ポイント上昇し94%と、いずれも肯定的評価が高い結果となりました。この評価は学校運営全体が良好な状態にあると考えられ、子どもが学校で主体的に学ぶための大切な要素が、この好循環につながっていると言えます。今後も子どもが主体的に学ぶ課題を考え、自ら進んで取り組み地域から学ぶ場面をたくさん設定していきます。

以上、高槻小学校からの報告でした。

桃園小学校 教頭 中村 吉博

続きまして、桃園小学校の令和6年度の取組と学校評価について報告いたします。

配付させていただいております本校の学校評価を基に、スライドを用いて報告をさせていただきます。

限られた時間となりますので、概要をお伝えします。

ご了承ください。

最初は、「安心／安全の学校づくりの推進」についてです。

学校という場所において児童の命・安全を守ることが最も重要なことであることとして、今年度も取組を進めてきました。

今年度、とりわけ重きを置いて取り組んだことは、教職員の「危機対応実地訓練」です。

形だけの訓練とならないように、実効性のある訓練となるよう保健安全部を中心に実施しました。

また、いつ災害が発生するかわからないということもあるので、年度当初にできるだけ訓練を実施するようにもしました。訓練において浮き彫りになった課題をすぐに危機管理マニュアルに反映するようにもしました。児童についても、年間を通じて計画的にたかつき安全 NOTE を用いた学習を行うなど、できるだけ早い時期に避難訓練を実施するようにもしました。昨年は、能登半島で大きな地震が頻発し、夏頃には宮崎沖で地震が発生し、南海トラフ巨大地震注意情報が出されました。

また、先日、南海トラフ巨大地震が、今後30年間で発生する可能性が80%に引き上げられました。これからの時代を生きていく子どもたちに防災教育を行っていく必要性を学校として強く感じています。そこで、来年度に、総合的な学習の時間等を用いて、系統的・計画的に防災学習を進めていきます。また、防災学習の一環として、子どもたちが学んだことをより深めるためにプロフェッショナルの方たちとの出会いや様々な体験を計画しています。

防災ネットワークや、市役所の関係課、社会福祉協議会、地区防災会、自衛隊、消防、関西大学社会安全学部の学生等の関係機関とも協力・連携して詳細を検討しているところです。学校の体育館に泊まる防災宿泊学習も含めて検討しています。

いじめ防止対策の組織や対応についてですが、いじめ事案や生徒指導事案を組織的に対応できるよう校務分掌を見直し、組織の構成や会議の在り方を見直しました。小学校では、月に1回程度しか各会議を実施することができません。昨年度までは、生徒指導に係る会議では、各学年の現状を共有するなどしていましたが、この会議だけでは、様々な動きがスムーズにできなかったため、リアルタイムに事案を共有する仕組みは別途確立し、月

に1回の会議では、事例としてそれぞれの学年に活かせることを共有し、学年に持ち帰るように目的を変更して実施しました。

適応指導教室の設置と効果的な活用による不登校対策の実施についてです。本校では、教室・家庭以外の「居場所」として、「ステップルーム」という名前で運用しています。月火木金の1～4時間目と給食時間を利用可能な時間として開室しています。入室時には、児童・保護者とステップルーム利用ルールやそれぞれの児童についての短期的・中期的なビジョンを共有します。また、児童保護者ともに定期的な面談を実施することになっています。

児童・保護者の関連するアンケートの結果はご覧のとおりです。取組の甲斐もあってか、高い肯定的回答となりました。

次に、「確かな学力の育成」についてです。授業を担当する全教員で構成する授業研究班を中心とした研究実践を昨年度から行っていますが、今年度は、授業研究班を数理、言語等の4つの領域に分け、年間4回の大きな研究授業を実施しました。また、大阪教育大学附属天王寺小学校から指導案検討や当日の指導助言等をいただきました。学校がめざす授業の姿を保護者や地域の方に知っていただくなど、学校に足を運んでいただくきっかけとするためにも、毎月10日を授業公開 Day として、各クラス1時間の授業公開を行いました。

5・6年生は全教科において教科担任制で授業を実施しました。また、1～4年生では音楽等の一部の教科で教科担任制を実施し、3、4年生では国語や算数で授業交換を実施しました。また、前回の会議でも少しお伝えしましたが、6年生においては学年担任制に取り組みました。

夏休み前、冬休み前に児童、保護者それぞれにアンケートを取りました。アンケートの回答は、児童・保護者ともに「大変そう思う」「ややそう思う」「これまでと変わらない」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の5つからの選択式で、「大変そう思う」「ややそう思う」を肯定的回答、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を否定的回答としてカウントしています。

保護者の7月と12月の結果と推移は表の通りです。概ね7月よりも12月の方が肯定的回答が増えており、「学年担任制という取組はいい取組だと思いますか」という設問では74.3%の保護者から肯定的な回答をいただいています。

こちらは児童のアンケートの結果と推移です。児童についても7月よりも12月の方が肯定的回答が増えており、「学年担任制という取組はいい取組だと思いますか」という設問では76.1%の肯定的な回答となりました。

学年担任制のよい点や課題等についての自由記述からです。保護者からは、「合わない先生と一年間我慢して付き合わないといけない、ということがない点。」という消極的な肯定の意見や「1週間という短いスパンで、本当に子供達全員を見ているのでしょうか。児童ひとりずつとの関わりが希薄にならないか。目立つ子、手のかかる子ばかりの特定の児童の対応が多くならないか」という心配の声もありました。

また、「新しい取り組みを導入して、よりよい学校づくりを試行錯誤されていることは、とても評価できると思います。賛否両論あるとは思いますが、このようにアンケートをとったり、フィードバックをしてもらえることはとてもありがたいです。」といった意見をいただきました。児童からは「いろんな先生と向き合えて、6年全体でも、仲良くなれるし誰先生いいなとかがない」といった肯定的な意見や「たまに、先生どうして統一してなくて、わからなくなる」や「宿題などを忘れたときに、誰に言えばいいかわからない」といったとまどい声もありました。

また、「先生を3人ではなく5人ぐらいにしてほしい。」等の学年担任制をより良く取り組むための意見もありました。

6年生担任の学年担任制をやってみての意見・感想です。保護者からは、「児童ひとりずつとの関わりが希薄にならないか」という不安の声もありましたが、担任達は、「学級担任制では、子ども1人1人のことを理解するまでに時間がかかっていたが、学年担任制だと、今年は担任が3倍なので、自分が理解していないことでもあとの2

人が分かっていたり、気付いていたたりすること多い」というように、むしろ複数で関わるため、一人の児童をより多角的・多面的に理解し、共有できるという実感です。今回、2月7日から来年度の取組を説明する動画の中で、学年担任制のことをアンケートの結果も踏まえ、お話ししていますが、さまざまな形で保護者に成果や課題を発信していく必要があると感じています。

その他の意見としては、「悩み事を保護者も児童も『担任』の壁隔たりなく相談できたように感じる。」「何をするにしても『クラスで』から『学年で』が基本となってクラス間の差が小さくなった。」「何か問題があっても、担任1人で抱え込むことがないので、問題が起こった時の精神的負担が軽減された。」等もありました。

「生徒指導事案が圧倒的に減少し、そこにかけていた時間を子どもたち一人一人にあてることができた。」という意見がありましたが、私自身も6年生は現時点まで、この学年が5年生だったときと比べても、例年の6年生と比べても圧倒的に生徒指導事案や保護者からのいわゆる苦情が減ったと感じています。これも学年担任制を実施したことの大きな成果だととらえています。来年度も継続・拡充していきたいと考えています。

「確かな学力の育成」に関連するアンケートの結果は、ご覧いただいているとおりです。今年度から実施した授業公開 Day もあってか、「学校は、保護者が授業参観や行事に参加する機会を設けている」については、98%という高い肯定的回答をいただきました。

次に、「豊かな人間性の育成」についてです。互いに認め合い、自己有用感を高める集団づくりについては、人権教育部において、年間を通じて集団づくりにこだわって、議論し、学級経営や学年経営を推進しました。

豊かな心を育む人権教育については、高槻市人権男女共同参画課に依頼し、「SNS と人権」というテーマで出前授業を実施する等しました。

児童・保護者の関連するアンケートの結果はご覧いただいているとおりです。児童については、昨年度とほぼ同じ数値ですが、保護者については肯定的な回答が増えています。授業公開を増やしたことや学校の考えや取組の発信を工夫した効果もあるのでは捉えています。

次に、「健やかな心身の育成」についてです。今年度も地元企業とタイアップした歯磨き指導の実施や栄養士による食に関する取組や掲示物の工夫に取り組みしました。体力の増進と運動習慣の向上を図る取組の実施については、小中連携加配教員を中心とした体育の授業を実施したり、体育や特別活動の時間を中心になわとび、球技、体づくり運動に取り組み、体育活動の充実をはかってきました。

児童・保護者の関連するアンケートの結果はご覧いただいているとおりです。保護者については、昨年度とほぼ同じ数値ですが、児童については肯定的な回答が減少しています。現在、校内で総括をしておりますが、今年度の取組を振り返り、来年度の取組に活かしていきたいと思います。

次に、「小中一貫教育とコミュニティ・スクールの推進」についてです。小中学校の連携を推進するための学校運営組織づくりについてですが、高槻小学校と合同の学年会議を年間を通じて定期的に行い、学年ごとの児童の交流等を行いました。

HPや校内掲示を活用した取組内容の発信についてです。HPや校内掲示以外にも、今年度は学校の考えや取組を発信することに重点をおいてきました。4月に教育課程等説明会を2学年毎に体育館にて実施し、めざす子ども像や授業・生徒指導事案やいじめが生じた際の対応・学年毎の子どもの様子や学年の目標等について説明いたしました。

2月7日からは、令和7年度の取組をオンデマンドにて配信しております。今年度から新たに広報委員会を設置し、玄関のモニターテレビや掲示板の効果的な活用を検討しました。玄関のモニターには、学年ごとに集めた日頃の子どもの写真や学校だより、学年だよりが順々に映るようになりました。保護者のみならず、学校を訪れた方が玄関で足を止めてモニターを見ている場面を多く見かけます。掲示板については、単に子どもの作品だけを

掲示するのではなく、授業において何を学び、どんな工夫をしているのかの説明も掲示するようにしました。

このことにより、その工夫に着目して子どもの作品を見てもらっていると考えています。子どもの生き生きとした姿を伝える学年だよりの作成も意識しているところです。

今年度から、まなびポケットを用いたおたよりの電子配信をしています。現時点で8割を超える保護者が電子でおたよりを受け取っていただいておりますが、電子のおたよりは、このようにカラーで鮮明に子どもの姿を見ることができ、保護者からも好評の声をいただいております。

関連するアンケートの結果はご覧いただいているとおりです。「学校は、教育方針や教育活動についてわかりやすく伝えている。」については、83%の肯定的回答をいただきましたが、肯定的回答として、「とてもそう思う」と「そう思う」をあわせた数値をお示ししていますが、強い肯定である「とてもそう思う」の回答は昨年度よりも多くなっています。この2年程、教科担任制や学年担任制等大きな変更を伴う取組を進めてきましたが、その中で、一定の高い肯定的回答をいただいていることに深く感謝しています。

次年度も子どもの安心安全や豊かな学びを一番に考え、校区で連携した取組を進めていきたいと思います。

以上、誠に簡単な説明ではございますが、よろしくお願い申し上げます。

服部 建 会長

ありがとうございます。三校それぞれに独自の取組もありましたし、共通したものもありました。多方面の、ありとあらゆる課題に対する、数多くの取組を、端的にご報告いただきました。取組が豊富であるということは、それだけ多くの課題に取り組んできたと言うことです。これが一年間の、学校教育活動の内容なのだと、感心しました。

これから意見交流を始めます。意見交流の柱については、

一つ目は、授業改善を中心にした学力向上について。

二つ目は、子どもたちの主体的な活動を基にした、人間力の向上について。

三つ目は、コミュニティ・スクールとして二年目を迎えるにあたり、協議会の活動をふり返ることについて。最後に、今後の校区の取組に対する要望や課題について。とします。

ただ、これを順番に進めていくのではなく、これらの柱について委員から意見等を伝え、適宜、学校から回答をもらう形式で進めることで、一問一答形式ではなく、交流を大切にしていきたいと思います。

それでは、委員の皆さんから、よろしくお願いします。

高木 祐樹 委員

ご報告ありがとうございます。この一年間、いろいろ関わらせていただいたので、今日の報告にあったような取組については、聞かせていただいております。特に桃園小学校には、今もPTAとして関わっているのも、去年から進められてきた学年担任制を含め、取組について、よくご相談をいただいております。

コミュニティ・スクールの意義の一つとして、校区の中で、九年間統一した目標をもって取組を進めていくということがありますが、高槻小学校では、学年担任制について、今後取り入れていく構想はあるのでしょうか。

高槻小学校 校長 八尾 洋美

桃園小学校の学年担任制の導入事例を参考に、本校でも導入が可能かどうか校内での議論を行いました。桃園小学校におけるメリットとデメリットを検討し、本校の状況を踏まえて導入した場合について議論を重ねました。その結果、現時点での導入は見送り、1年間かけて学年担任制についてさらに検討を深めることになりました。具体的には、本校の体制で学年担任制を導入する場合の具体的な方法や課題について検討し、導入の可否を

判断する予定です。

また、桃園小学校との情報交換や連携も継続し、校区として、より良い教育体制を構築できるよう努めていきたいと考えています。

高木 祐樹 委員

ありがとうございます。来年度の一年間を検討期間とし、将来的には高槻小学校でも学年担任制が実施される可能性があるということですね。

同じ校区の小学校では、同じ中学校に進学する児童が多く、保護者間で情報交換が行われる機会も自然と多くなります。そのため、一方の小学校で実施されている取り組みが、もう一方の小学校でも行われるのかについて、保護者間で話題になることがあります。検討されていることも含め、公開できる情報については、保護者に対して公開しても良いのではないのでしょうか。

コミュニティ・スクール自体の認知度が非常に低いというアンケート結果は、どの学校でも見られたものです。しかし、コミュニティ・スクールを知っている人が多ければ良いというわけでもありません。コミュニティ・スクールの存在が、子どもたちの学びに確実に繋がっているという結果が、まだ十分に出ていないことが、アンケート結果にも表れているのだと思います。コミュニティ・スクールの存在意義の浸透だけが進み、アンケートに対する肯定的な回答が高かったとしても、子どもたちや保護者の実感と伴っていなければ、その意味は大きいとはいえません。コミュニティ・スクールの活動に、より良い結果を伴わせるような形で、今後の取り組みを進めていきたいと考えています。

もう少しお話しします。今年度推進しているサポーターの活用についてです。サポーターは、保護者だけでなく地域の方にも登録していただき、高槻市にも登録します。登録者のリストは作成されますが、その活用方法は学校側に委ねられています。活用方法を周知するための文書は作成しましたが、登録者数はまだ少ない状況です。先生方がサポーターの活用イメージを持たなければ、登録しても活動機会がないまま終わってしまうケースも起こり得ます。高槻小学校では登録者数が特に少ないため、個別の活動依頼は難しい状況です。しかし、サポーター制度にはいくつかの利点があると考えています。

現在、保護者の方々に活動の機会を提供していますが、今後は地域の方々にも参加していただき、活動の幅を広げたいと考えています。活動を見てもらうことで、次へのつながりが生まれると期待しています。例えば、桃園小学校では商店街での体験活動に保護者の方々をお越しいただきました。「見守り」としての参加でしたが、子どもたちの様子や学校の取り組みを直接見ていただく良い機会になったと思います。このように、活動に積極的に参加していただくことで、学校との距離が縮まり、学校の考えを伝えやすくなるという利点があります。

一方で、デメリットもあります。例えば、3年生の活動では、先生方がサポーターを活用するイメージを持てず、教頭先生に負担が集中してしまいました。今後は、学年ごとにサポーターを活用するイメージを持ち、情報発信まで行えるようにしたいと考えています。教頭先生に負担が集中しないよう、他地域の事例を参考に、各学校のスタイルに合った活用方法を検討していきたいです。サポーター活動を通じて、保護者や地域の方々为学校に関わる機会を増やし、コミュニティ・スクールの存在意義を高めていきたいと考えています。活動の積み重ねを通じて、コミュニティ・スクールの成果を実感していただくことが重要です。

また、より深い学びの機会や、教職員の業務効率化・負担軽減につながるよう、外部の専門家を活用しながら、各学校の課題解決を支援していきたいと考えています。各学校が抱える課題について、積極的にご相談いただきたいと考えています。こちらから情報提供するだけでなく、学校側からのご要望もお待ちしております。過去には、第一中学校からご相談をいただき、連携した事例もありました。全ての要望に応えられるとは限りませんが、可能な

限り協力したいと考えています。学校間や校内で課題や要望があれば、遠慮なくお声かけください。全てを実現できるとは限りませんが、最大限努力いたします。引き続き、よろしくお願いいたします。

服部 建 会長

サポーターの活用が大きな課題であり、コミュニティ・スクールとの連携において、情報共有などが適切に行われることが望ましいというご指摘があったと思います。

それでは、他の委員の方からもお願いします。

兵頭 奈津子 委員

ご報告いただきありがとうございました。私は一保護者であり、専門的なことは申し上げられませんが、小学生の子どもを持つ保護者としての意見をお伝えします。

学校運営協議会のような場に参加しなければ、知ることなく終わっていたであろうことが多くありました。「コミュニティ・スクール」という言葉も、この会議に参加していなければ、アンケートで「知らない」と回答していたと思います。しかし、高木委員のお話を聞いて、コミュニティ・スクールの取り組みは決まっていっているわけではないと感じました。授業公開やサポーターのお知らせなど、LINE での情報提供も頻繁にあります。先日、子どもの個人懇談に行った際には、桃園小学校の入り口の電子掲示板に、高槻小学校との交流の写真が流れ、子どもが「この前行ったんだよ」と教えてくれました。掲示板を見ることで、子どもの活動をリアルタイムで知ることができそうです。掲示板の活用など、多くの取り組みがなされていると感じます。

ただ、お話を聞いていて感じたのは、「コミュニティ・スクール」や「学校運営協議会」という名称と、学校で行われている様々な施策が結びついていないのではないかということです。私も、月に一度の授業公開について「なぜこんなに授業参観が多いのだろう」と思っていました。しかし、この場に参加することで、学校の取組の目的を聞き、「なるほど」と納得しました。掲示板の作品展示が一括でなされていることが、教室に掲示物を飾ることで生まれる負担を軽減するためであることも、同様に知ることができました。

素晴らしい取り組みが数多く行われているにもかかわらず、個々の活動がコミュニティ・スクールの一環であることが保護者に伝わっていないだけではないかと思います。学校側は、手紙や説明会などで情報発信をしていると思いますが、スマートフォンでの情報提供は、つい「いつでも読める」と後回しにしていまいがちです。どこまで情報が伝わっているのか、疑問に思うことがあります。

せっかく多くの取組をされているので、「保護者の皆様に学校の取り組みを知ってもらうための活動です」と、地道に説明する機会が必要ではないでしょうか。スマートフォンでの情報発信は便利ですが、保護者が教育に参加するためには、実際に学校へ足を運び、子どもの姿を見るというアナログな体験が最も重要だと思います。桃園小学校の授業公開は、先生方や保護者の方々にとって負担が大きいかもしれませんが、そのような地道な活動こそが大切なのではないかと感じました。以上です。

服部 建 会長

コミュニティ・スクールの活動自体は、一体となっていて行われていると思いますが、学校運営協議会となると、その役割が分かりにくくなるかもしれません。しかし、学校運営協議会は、学校側が教育活動を整理して説明し、委員が意見を述べ、学校がそれを受け止める場として機能していると思います。そうした意見を反映して、学校教育活動は進められていくと考えられます。

ただ、周知という点で、今後どのように情報を広めていくかが課題です。兵頭委員がおっしゃるように、受け身の

姿勢では情報は伝わりにくいでしょう。やはり、実際に参加して体験することが重要です。極端な話、学校運営協議会を体育館で保護者参観として開催するのも面白いかもしれません。これは、今後ゆっくりと検討していくべき課題だと思います。

今の話について、学校側からはいかがですか。

第一中学校 校長 安田 信彦

コミュニティ・スクールは、目的ではなく手段です。コミュニティ・スクールそのものを知ってもらうことが目的ではありません。では、目的は何でしょうか。一つは、子どもの教育を良くすること、特に学校における教育を良くすることです。もう一つは、地域の大人が自分の子どもだけでなく、地域の子どもの全体に責任を持つことです。

子どもの教育を良くするという点で言えば、授業を見てもらうことが重要です。行事を見てもらうことも良いですが、普段の授業こそ見てもらいたいと思います。

また、教育を良くするためには、サポーターの存在が重要です。応援してもらうことは、大きな力になります。サッカーの無観客試合のように、応援がないと力を発揮できません。多くの人に見てもらうことで、教育は必ず良くなります。

そして、結果だけでなく、過程を見てほしいのです。テストの点数だけでなく、授業中の頑張りを見てほしいのです。子どもたちは、様々なことを考え、粘り強く取り組みます。些細なことでも、よく見ると子どもの成長を感じます。保護者や地域の方々に、そのような姿を見て評価していただくことが、教育を良くすることにつながります。

地域の大人が地域の子どもの責任を持つという点で言えば、教育課程外の教育活動に注目してほしいと思います。授業時間数が決まっていない教育活動、学校に委ねられている教育活動です。部活動や放課後の学習会などがそうです。学習指導要領で定められていない活動です。この教育課程外の教育活動には、保護者や地域の方々の協力が必要です。さらに、どのような活動を行うかを、地域の方々と一緒に考えていきたいと思っています。学校が一方向的に提案するのではなく、地域の方々からも提案していただきたいのです。今年度は、絵本の読み聞かせなどの提案をいただき、実施しました。双方向で提案し合い、教育課程外の教育活動を充実させることが、子どもたちの成長につながります。保護者の方々には、得意なことやできることで協力していただけると嬉しいです。

服部 建 会長

ありがとうございました。手段と目的について、お話いただきありがとうございます。改めて、コミュニティ・スクールという仕組みが、教育を良くするための手段であり、その目的は子どもたちの成長と地域全体の教育への関与を高めることにあるということが明確になりました。

では、続いて委員からお願いします。

中川 修一 委員

詳細なご報告、ありがとうございます。私がここにいる理由を改めて考えさせられます。私は高槻小学校と一中のPTA会長を務め、現在は高槻まつりに関わっています。昔、来賓席に座っている年配の方々を見て、地域の方々だと気づかされました。今、私はその席に座り、改めて地域の繋がりを感じています。

経験から申し上げますと、一中校区のどの学校も素晴らしい活動をされていると感じます。高木さんや兵頭さんから改善点も挙げられましたが、私は保護者が気軽に授業を見学できる機会を増やしてほしいと思います。例えば、「今日仕事がないから学校に行ってみよう」というような気軽な訪問です。安田校長がおっしゃるように、見て

もらうことで子どもたちは成長します。

PTA 会長時代、文化祭の学年評価を各クラスに行ったことがあります。PTA 会長が劇の感想を述べることは、子どもたちにとって初めての経験だったかもしれません。しかし、学校の先生ではない保護者が感想を述べることは、第三者が関わる場を作る上で非常に意義深いことだと思います。それは、点検ではなく、近所に住む子どもたちの様子を知るためです。町で会うのと同じように、学校でも子どもたちの様子を見守りたいのです。

現在のサポーター制度も、その役割を担っているのかもしれません。肩書きを与えて参加を促すことも一つの方法ですが、通学路に立って見守ってくださる方々のように、自然な形で見守ることも大切です。子どもたちは、見守ってくれる人がいることを理解しています。学校でも、授業や様々な場面をオープンにし、子どもたちを見守ってほしいと思います。

安田校長の「オープンにすることで強くなる」という言葉は、まさにその通りだと思います。学校が地域に開かれることで、子どもたちはより成長できると信じています。

頑張ってください。皆で頑張りましょう。

服部 建 会長

先ほど安田校長先生がおっしゃっていたように、公開授業以外の日でも、いつでも学校へ来てくださるとのことですが、実際にいつでも歓迎してくださるのでしょうか？

第一中学校 校長 安田 信彦

個人的な思いとしてはその通りです。

高木 祐樹 委員

保護者としては、「いつでも来てください」と言われると、かえって行きにくいと感じてしまいます。決まった期間を設定していただいた方が、行きやすいです。

桃園小学校 教頭 中村 吉博

桃園小学校では昨年度、「いつでも来ていただいて結構です」と学校だよりに掲載しましたが、実際には保護者の方々は行きにくいと感じられたようです。一人で行く子どもから何か言われるかもしれないという懸念もあったようです。そういったこともあり、今年度は授業公開デーを設定することになりました。

服部 建 会長

色々ご苦勞もあるかと思いますが、引き続きよろしく願いいたします。

それでは、委員からのご意見をお願いいたします。

石井 英真 委員

各委員の方々がおっしゃるように、報告を聞いていると、学校運営が順調に進んでいるように感じます。良い学校の条件は様々ですが、結局は「子どもたちが成長しているか」「先生方が元気に活動しているか」という点に尽きると思います。今回の報告では、数値データだけでなく、具体的なエピソードや事例も交えて立体的に説明していただき、学校の様子がよく理解できました。

「明日行きたいと思える学校」「子どもの姿で勝負できる学校」「語りたいものがある学校」という点で考えると、

アンケート結果でもポジティブな意見が多く、子どもたちの成長も具体的に伝わってきました。さらに、どのような点が良くなっているのか、成功要因は何なのかを深掘りして聞いてみたいと思いました。

特に、第一中学校の授業改善は、様々な取り組みの成果として、チャレンジテストの結果や、教え方の工夫に関するアンケートでも良い結果が出ているように感じます。授業改善が上向きに進んでいる最大の要因について、改めてお聞かせいただければと思います。

また、生徒会活動も積極的に行われており、「生徒会活動に関心がある」という肯定的な回答が上昇傾向にあることは素晴らしいと思います。他の中等教育学校では、生徒会活動において執行役員への立候補者が不足しているという事例も聞く中で、第一中学校の取り組みは非常に重要だと感じました。生徒会活動に力を入れることで、良い循環が生まれるのではないのでしょうか。

学びの変革、授業改善の結果として、学力テストの点数も向上しているとのことですが、その要因についても詳しくお聞きしたいです。

小学校においても、児童会活動が活発化し、全体として「学校が楽しい」「居心地が良い」という肯定的な回答が増加しているとのことですが、この好循環を生み出している具体的な要因についてお聞かせください。

また、桃園小学校では、学年担任制や教科担任制が導入されています。今後、教員不足が深刻化する可能性も考慮し、これらの制度がどのように機能するのか、そのマネジメントについてお聞きしたいと思います。特に、都市部でも僻地のような状況が発生する可能性がある中で、協働性や見守り体制をどのように構築していくのが重要だと考えています。

生徒指導事案が大幅に減少した要因についても興味があります。協働性や見守りの質の向上が関係していると思われますが、その具体的な取り組みや工夫について共有いただけるとありがたいです。分業と、コミュニティとしての成立を両立させる上での苦労やコツなども、お聞かせください。

服部 建 会長

これについては、それぞれに学校からお願いいたします。

高槻小学校 校長 八尾 洋美

今年度から学習指導拠点校として研究を始め、先生方が主体的に研究を進めています。研究主任の先生が中心となり、授業研究班を編成し、月 1 回子どもたちが意欲的に学べる授業について、この授業研究班で研究を進めています。今年は基礎作りの年として、先生方がグループに分かれて研究テーマを検討したり、授業研究を行う際の指導案を共同で作成したり、授業後に互いに良かった点や改善点を共有し合ったりする取り組みを進めてきました。常に改善を意識し、授業の質を上げていくことを目指しています。

研究担当の先生が毎回実施しているアンケートでは、先生方自身が研究を進め、授業研究を通して振り返ることで、学びが深まっているという声が多く上がっています。また、先生同士が率直に意見交換できる環境が、学びをさらに促進しているという意見もありました。先生方の学びは、確実に子どもたちに還元されていると感じます。先生同士が互いに意見を言い合える関係性は、子どもたちもよく見えています。先生方が授業を楽しみ、研究に意欲的に取り組む姿は、子どもたちに良い影響を与えていると感じます。先生方が主体的に研究を進め、意見交換することで、授業の質が向上し、子どもたちの「学校が楽しい」「居心地が良い」という気持ちにつながっているのだと思います。先生方が楽しくなければ、子どもたちもそうは思わないでしょう。今年度の取り組みを今後も継続し、さらに発展させていきたいと考えています。

桃園小学校 校長 栗原 雅彦

学年担任制によって生徒指導事案が大幅に減少した要因は、子どもたちが安心して学校生活を送れるようになったことにあると考えられます。子どもたちのアンケート結果にも表れているように、クラス間の差がなく、子どもたちが自由に交流できる環境が、安心感を生み出しているのだと思います。また、3人の担任がそれぞれの時間割に合わせて子どもたちを見守ることで、一人では気づきにくい変化にも気づけるようになりました。教科担任制も導入しているため、時間割によって担任の先生が変わり、多角的な視点で見守ることができる点も、子どもたちの安心感につながっていると感じます。

例えば、「あの子、いつもより元気がないね」というような会話が自然に生まれ、「そうだね、私もそう思った」「私もそう思う」と共感し合い、「どうしたの?」と声をかけられるようになったことが、安心感につながっているのだと思います。そのような小さな声かけの積み重ねが、子どもたち一人ひとりの日々の安心につながり、生徒指導事案の減少につながっていると考えています。

桃園小学校 教頭 中村 吉博

教頭の立場から申し上げますと、職員室で先生方の様子を見てみると、会話の機会が格段に増えたように思います。学年会議の回数は減りましたが、日常的なコミュニケーションが活発になったと感じています。

ICT機器を活用して、簡単な情報を即座に共有したり、子どもたちの面白い出来事を共有したりと、先生同士の会話が活発になったことが、良い影響を与えていると感じています。些細なことでも互いに共有し、協力し合うことで、子どもたちへの対応も円滑になっているのだと思います。

第一中学校 校長 安田 信彦

初めにもう少し子どものことを話します。先日、2月初めに、ある大学付属中学校の公開授業を見学しました。本校1年生の学年主任と二人で、1年生から3年生までの全クラスの授業を見学しました。特に3年生の授業を見学したのは、石井委員が常々おっしゃっているように、付属中学校の3年生がどのような姿で卒業していくのかを知りたかったからです。数学と社会を1時間ずつ見学しました。数学は折り鶴を使った図形の問題を扱う授業で、社会は地方自治をテーマに身近な課題を考える授業でした。

以前は、付属中学校の授業を見ると、環境や生徒の違いから「公立中学校では難しい」「真似できない」と感じるが多かったのですが、今回は全くそうは思いませんでした。「この授業をうちの生徒が受けたらどうだろう?」と、一中の生徒たちの姿を思い浮かべながら授業を見学しました。生徒たちがどのような反応を示すか、どのような発想をするかを想像し、付属中学校の授業が特別ではなく、一中でも十分に実施可能だと感じました。見学に同行した教員も、「一中の子どもたちの素晴らしさを改めて感じますね」と話されていました。同行した教員も同じように、付属中学校の授業が特別なのではなく、一中でも先生方が同様の質の高い授業を展開していると感じたようです。

先生方の変化について、校長の立場からお話します。この2、3年で、先生方は大きく変わったと感じています。まず、チームで取り組むようになったことが挙げられます。ある先生が、「以前はマンパワーで教育をしていたが、今はチーム力で教育するようになった」と話していました。経験豊富な先生もそう感じているようです。

次に、授業における時間の使い方が変わりました。以前は、先生も子どもも時間に追われながら教育活動を行っていたように思います。先生は教科書の内容を全て教えようと必死で、子どももタイマーによる時間の制約を受けながら課題に取り組むような状況でした。しかし、今は先生方が授業の重点を絞り、子どもたちに考える時間を与えるようになりました。その結果、子どもたちが主体的に考えるようになったと感じています。

そして、子どもと先生の距離感が変わりました。以前は、先生が丁寧に説明し、寄り添って指導する場面が多かったのですが、今はグループワークを見守ったり、必要な時にサポートしたりと、子どもたちの思考を深めるような関わり方によって変わってきています。

先生方の考え方にも変化が見られます。以前は、生徒に失敗させないこと、知識を与えることが重要だと考えられていましたが、今は失敗を学びの機会と捉え、生徒自身が知識を構築していくことを重視するようになりました。先生方に余裕が生まれ、柔軟な考え方ができるようになったと感じます。

また、子どもたちに対する見方も変わりました。以前は、できていないところに目を向け、ネガティブに捉えることがありましたが、最近ではできていないことも含めて、子どもたちが学ぼうとする姿勢や頑張りを評価するようになりました。「子どもたちを見ていると本当にすごい」という言葉を先生方からよく聞くようになり、子どもたちをポジティブに捉えるようになったと感じます。

こういった先生方の変化の背景には、これまでの「当たり前」を見直す動きがあると思います。これまでの学校教育の「普通」とされていたことに疑問を持ち、本来の教育のあるべき姿や、公立学校としての役割を改めて考えるようになったのではないのでしょうか。先生方は互いに学び合い、協力し合いながら、教育を創造しています。その結果、学校全体に変化が生まれ、良い方向へと進んでいるように感じます。

服部 建 会長

先生方のチームワークが伝わってきました。三校の先生方、本当にありがとうございました。それでは、委員の方からのご意見を願います。

倉橋 忠男 副会長

コミュニティ・スクールの話が出ましたが、学校運営協議会の準備は本当に大変ですね。私も先週金曜日に職場で学校運営協議会があり、年度末の忙しい時期に準備するのは大変だと感じました。先生方はもっと大変だろうと思いながら、今日のお話を聞いていました。安田校長先生から学校運営協議会の意義についてお話がありましたが、私は昨年度も申し上げたように、先生方が年度末の忙しい時期に 1 年間の取り組みを振り返る機会になることが意義の一つだと思います。

また、私たち委員にとっては、先生方を褒める機会でもあると考えています。先生方は、部活動で優勝したなどの目立つ成果がない限り、大人から褒められる機会は少ないのではないのでしょうか。学校の日常的な取り組みを大人に褒めてもらうことは、先生方にとって励みになると思います。兵頭委員がおっしゃっていたように、この場に来なければ知らなかったことはたくさんあります。私も自分の職場の学校運営協議会で、普段当たり前だと思っていた業務を地域の方々に褒めていただき、改めて自分たちの仕事の意義を感じることができました。

さて、1 つお聞きしたいことと、1 つ要望があります。まず、思考力・判断力・表現力等の育成についてです。一中ではパフォーマンス課題、小学校では総合的な学習の時間に力を入れているとのことですが、ご家庭でも Chromebook を使った調べ学習に取り組んでいるお子様が多いのではないのでしょうか。しかし、SNS での誹謗中傷やフェイクニュースが社会問題化している昨今、インターネット情報の真偽を見極める力は非常に重要です。コロナ禍で 1 人 1 台端末が普及し、調べ学習の機会が増える中で、先生方が情報の真偽を確認するのは困難だと思います。高校では、生成 AI の活用も進んでおり、パフォーマンス課題や調べ学習の指導方法も変化しています。先生方は、調べ学習やパフォーマンス課題の指導でどのような点に苦労されているのか、率直な意見をお聞かせいただきたいです。特に、Chromebook を使った授業を担当されている先生方から、具体的な課題や困っていることがあれば教えていただきたいです。

次に要望についてお話をさせていただきます。高校では、コロナ禍以降、転退学者が増加傾向にあります。要因の一つとして、通信制高校の増加により、進路変更のハードルが下がっていることが考えられます。小中学校で不登校や登校渋りを経験した生徒や保護者が、一度全日制高校に進学し、合わなければ単位制高校に転籍するという選択肢を取りやすくなっているのです。しかし、高校生は通学時間の増加や部活動、アルバイトなどで生活リズムが不規則になりがちです。そのため、朝寝坊や遅刻、欠席があっても、以前はあまり心配していませんでした。しかし、2、3日欠席が続いた際に、怠けていると安易に判断してしまった結果、実は中学校時代に不登校を経験していた生徒もいました。中学校との連携が不十分で、情報が共有されていなかったことが原因です。不登校は再発率が高く、特に高校ではその傾向が顕著です。高校側で生徒の情報を十分に把握していれば、より適切な指導や支援ができたはずで、そこで、小中学校の先生方をお願いしたいのは、生徒の情報を高校側と共有していただきたいということです。目立つ生徒の陰に隠れて、目立たない生徒がいることは理解していますが、過去の不登校経験などの情報は、高校での指導に役立つ重要な情報です。情報共有によって、高校側は生徒一人ひとりに寄り添った支援ができるようになります。

服部 建 会長

では、学校側からお願いします。

第一中学校 研究主任 小川 典子(担当教科:外国語科)

手元に英単語を調べられる道具があることは大きなメリットですが、安易に答えを求めてしまう傾向が見られることが心配です。生徒たちは、自分の意見を書こうとする際に、まずパソコンを開くという行動を取ってしまい、答えを写すだけの作業になってしまうことがあります。そこで、最近では、あえて辞書を使わずに、まず自分の書きたいことを書き、分からないところは下線を引いて後で調べるように指導しています。また、時間を区切り、10分後に辞書を使っても良いというように、生徒が自分で判断する力を養うようにしています。しかし、便利になった反面、家庭学習では翻訳機能を使う生徒や、辞書の使い方を理解していない生徒も見られます。例えば、「誰々さんの」という表現で「one's」が使われている場合、文脈によっては「his」や「her」に修正する必要があるのですが、そのまま使ってしまうことがあります。生徒たちが自分で文章を作成し、ICT機器を適切に活用できるよう、指導方法を工夫する必要があります。また、英語科で最適なオンライン辞書について検討するなど、より良い学習環境を提供するための努力をしています。

第一中学校 首席 渡辺 周平(担当教科:数学科)

ICTの利用は、学習の手段として非常に有効だと考えています。学び合いの場面でも、誰かに質問することに抵抗がある生徒が、YouTubeで解説動画を見つけることで問題を解決することがあります。安田校長先生がおっしゃっていたように、ICTの利用は子どもたちの失敗体験にも繋がっていると感じます。ICTを使ってその場を解決しても、テストなどの使えない場面で躓き、失敗を経験します。しかし、その失敗をきっかけに、次にどうすれば良いかを考え、友達に質問するなど、主体的に学ぶ姿勢が見られる生徒もいます。3年間同じ生徒を見てきて、失敗体験を次の学びに繋がられる生徒は、長期的に見て成長できていると感じています。しかし、来年度、また3年生を担当することになった場合、もしその生徒たちに失敗体験を学びに繋げるという経験の素地がなかったとき、1年間で生徒たちが失敗体験から学べるように指導するのは難しいと感じています。小学校の頃からICTに触れることには価値があると思いますが、適切な失敗体験をどのように経験させるかが課題です。倉橋委員がおっしゃっていたように、SNSでの失敗は取り返しがつかない場合もあります。デジタルシティズンシップ教育など、9年

間を通して子どもたちに伝えるべきことがあると思います。教科の学習においては、時間があれば子どもたちは、失敗体験を学びに変えられると信じています。

服部 建 会長

ICTは道具として有効に活用すれば良いと思います。指導者は、その光と影の部分をしっかりと理解した上で指導にあたる必要があります。考えること、つまりプロセスを省いてはいけません。効率的に問題を解決するために道具を使うことは有効ですが、例えばパソコンで「麒麟」や「石鹼」という文字を打てても、手書きで書けるとは限りません。子どもたちには、安易に答えを求めるのではなく、自分で考え、組み立てるプロセスを経験させることが重要です。ICTを活用するだけでなく、手書きで考えながら書く作業も大切にすべきです。指導者は、これらのバランスを考慮しながら、子どもたちに必要な指導を行う責任があると思います。

それでは、最後にひとことございましたら、どうぞ。

高木 祐樹 委員

中学校の部活動について、確認させていただきたい点があります。資料では、部活動に関する検討がなされたことと記載されていましたが、具体的な改善策については詳細がわかりませんでした。また、サポーターの方々が部活動指導に協力することは可能でしょうか。現在の部活動の状況と、今後の方針について、より詳しくお聞かせいただけますでしょうか。

服部 建 会長

では、その点についてお願いします。

高槻第一中学校 校長 安田 信彦

部活動については、特別活動の部会で検討を重ねています。基本的には、教員の勤務時間である午後5時までを活動時間とし、これまで午後6時まで行っていた活動を短縮していく方向で進めています。一方で、学校の教育活動としての部活動は、子どもたちが自主的・自律的に活動する力を育む重要な機会であると考えています。チームとしての課題を見つけ、練習メニューを考え、目標を設定するなど、子どもたちが主体的に活動することで、やらされるのではなく、自らやる力を身につけてほしいと考えています。

現在、各部活動では、ミーティングを通して目標設定や練習計画の検討を行っています。また、3月には、活動時間を短縮しながら全国大会を目指している高校のラグビーチームの指導者から、オンラインで話を聞く機会を設け、効率的な練習方法などを学ぶ予定です。このように、子どもたちが自主的に部活動を運営できるよう、力をつけていくことを目指しています。

服部 建 会長

地域の方のサポートを拡大していく、ということについてはいかがですか。

高槻第一中学校 校長 安田 信彦

部活動指導について、学校教育サポーターの方にご協力いただいております。応援していただけるのであれば、ぜひ積極的にお力添えいただきたいと考えています。

服部 建 会長

社会教育に振るという方向はないのですか。

高槻第一中学校 校長 安田 信彦

現在、高槻市では土日の部活動について、社会教育との連携という形で準備を進めている段階です。高槻市の全中学 18 校が一斉に社会教育へ移行するのは難しく、現在研究や検討が行われているとのこと。

高木 祐樹 委員

今後の土日の部活動についてはいかがですか。

第一中学校 首席 渡辺 周平

部活動のガイドラインでは、土日のどちらかを休養日に設定することが明確に定められています。また、平日も 1 日の休養日を設けることが国から示されており、本校でもこの方針に従っています。活動時間を午後 5 時までに短縮することについては、教員の働き方改革の一環として進めています。個人的には、部活動指導に魅力を感じて教員になったため、安易な活動時間削減には反対の立場でした。しかし、本校の特別活動推進委員会の教員が、単なる削減ではなく、限られた時間の中でより効果的な活動を目指し、様々な取り組みを進めていることから、協力するに至っています。具体的には、部長を集めたサミットを開催したり、短時間で成果を上げている高校の講習会を手配したりするなど、子どもたちが主体的に活動できるような支援を行っています。私も男子バスケットボール部の顧問として、子どもたちに「なぜバスケットボールをするのか」という目的意識を持たせるように働きかけています。子どもたちは「一人ひとりの長所が光る最高のチームを目指す」というテーマを自分たちで考え、活動に取り組んでいます。高槻市の方針として来年度から活動時間が午後 5 時までとなった場合でも、本校ではすでに準備を進めているため、円滑に移行できると考えています。

服部 建 会長

部活動に関しては、勝利至上主義から、子どもたちが充実感を持って主体的に活動することに重点が置かれるようになったと感じました。授業改善については、子どもたちが主体的に学ぶ授業を目指し、先生方が熱心に取り組まれていることが伝わってきました。単に知識を詰め込むのではなく、問題解決型の授業やグループワークを取り入れることで、子どもたちの思考力や協働性を育てていると感じます。先生方のチーム力も、学力向上に大きく貢献しているのではないのでしょうか。特別活動や総合的な学習の時間においては、子どもたちが主体的に活動し、人間力を高める取り組みがなされていると感じました。子ども同士、あるいは教員や地域の方々との協働を通して、様々な学びを得ているのだと思います。

今後の課題としては、サポーターの活用が挙げられると思います。PTA の組織形態も変化していく中で、地域のサポーターと保護者のサポーターが連携し、継続的なサポート体制を構築していく必要があると感じます。

また、思考力・判断力に加えて、表現力の育成も重要だと感じました。授業改善を通して、子どもたちの思考力や判断力は培われていると思いますが、プレゼンテーション能力や発信力など、社会で求められる表現力を高めることも重要です。子どもたちが自分の考えを堂々と伝えられるよう、発信力を伸ばす取り組みにも期待しています。

私からは以上です。それでは、最後に学校側からお願いします。

桃園小学校 校長 栗原 雅彦

本日は長時間にわたり、第3回第一中学校区学校運営協議会にご参加いただきありがとうございました。

今回は本校区の教育目標の達成を目指し、実施しました重点取組の成果を検証するために、学校教育自己診断アンケートの結果をご覧いただき、多くのご意見をいただきました。誠にありがとうございました。このように幅広い視野で、様々な分野や立場の方からのご意見をいただき、取組内容の改善・充実を図ることで、子どもたちへのより質の高い教育を実現できると考えております。本日の協議で皆様からいただいた貴重なご意見を受け、推進員の方との連携を益々強化しながら、地域の方等と学校教育の充実に向けて協働を進めてまいります。そのためには、来年度以降も今までと変わりなく、保護者や地域の方のご協力が必要ですので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。

服部 建 会長

本日の案件はすべて終了いたしました。

これで第3回第一中学校区運営協議会を終わります。